

今回の統計関連学会連合大会では、様々な企画セッションが計画されています。ここでは、それぞれのセッションについてプログラムと概要を紹介いたしたいと思います。

1) 統計関連学会企画セッション

2010 連合大会では、応用統計学会、日本計量生物学会の受賞者講演と共に、日本計量生物学会、日本分類学会、日本統計学会が近年の統計的方法並びにその適用に関する企画セッションを立ち上げた。この他にも統計関連学会連合統計教育推進委員会並びに日本統計学会統計教育委員会が企画した統計教育関係の企画セッションもあるのだが、これは別途、教育関係企画セッションとして紹介したい。

A) 応用統計学会企画セッション、応用統計学会学会賞受賞者講演

オーガナイザー：永田靖（早稲田大）、黒木学（大阪大）、岸野洋久（東京大）

本セッションは、2010 年度優秀論文賞受賞者および奨励論文賞受賞者に、受賞対象となった論文を中心に研究の紹介をしていただくことで、研究のさらなる発展を奨励するとともに、応用統計学会会員および応用統計学に関心を持つ方々の研究意欲を刺激し、かつ多くの統計学研究者や統計ユーザーに応用統計学への関心を高めていただくことを目的として企画するものである。応用統計学会では、統計学研究者に刺激を与えるとともに、応用統計学研究のさらなる発展を期待して、2005 年に優秀論文賞および奨励論文賞が創設された。これらの論文賞受賞者は、応用統計学会学会賞規程に基づき、応用統計学会誌に掲載された論文の著者で本学会員または学生会員から選出される。

9月7日〔火〕15時30分－17時10分 座長：黒木学（大阪大）

15時30分－16時20分：佐藤健一（広島大）、柳原宏和（広島大）、加茂憲一（札幌医科大）

「離散分布の経時測定データにおける線形な変化係数の推測について」

16時20分－17時10分：川田章弘（東京理科大）、塩濱敬之（東京理科大）

「格付・財務情報を用いた金利・リスクプレミアム期間構造の推定」

B) 日本計量生物学会企画セッション

B1) 計量生物学における統計的因果推論の役割

オーガナイザー：上坂浩之（大阪大）、黒木学（大阪大）

計量生物学の発展に貢献してきた統計的因果推論は、グラフィカルモデル・反事実モデルによる理論の精緻化をとおして新たな局面を迎えつつある。欧米では大きな注目を集めている統計的因果推論研究も、国内においては理論・応用のいずれにおいても十分に研究

が進んでいるとはいいがたく、統計的概念と因果的概念とが混同され、解析結果が誤って解釈されるケースも少なくない。そこで、本シンポジウムでは、統計的因果推論に関するホット・トピックのいくつかについて、第一線で活躍している研究者にご講演いただく。また、指定討論をとおして統計的因果推論に関する生物統計家の理解を深める。本シンポジウムをとおして、計量生物学がさらなる発展を遂げるために統計的因果推論研究が果たすべき役割について考えるきっかけをつくりたい。

9月8日〔水〕10時－12時 座長：服部聡（久留米大）

10時－10時35分：黒木学（大阪大）

「測定誤差データを用いた自然な因果効果による代替エンドポイントの評価」

10時35分－11時10分：佐藤俊哉（京都大） 「平均因果効果の二重ロバスト推定」

11時10分－11時45分：松山裕（東京大）

「臨床・疫学データにおける平均因果効果の推定：実際の応用例の紹介」

11時45分－12時：総合討論 指定討論者：椿広計（統数研）

B2) 日本計量生物学会奨励賞受賞者講演

オーガナイザー：大森崇（同志社大）

計量生物学の若手研究者の優れた研究成果に対して、その成果についての講演の機会を提供することにより更なる研究の発展を奨励するとともに、計量生物学会会員、及び計量生物学に関心を抱く方々の研究を刺激し、また、広く統計学の研究者あるいは利用者の方々に計量生物学への関心を高めていただくことを目的として、2010年の奨励賞受賞者に、受賞対象となった論文を中心に研究の紹介をしていただく。日本計量生物学会は、研究者へ刺激を与え、若い研究者の成長を促進し、また研究環境の開拓と研究の発展・拡大を期待して学会賞、功労賞、奨励賞の3賞を2003年に創設した。奨励賞は日本計量生物学会誌または *Biometrics* 誌、または *Journal of Agricultural, Biological, and Environmental Statistics* 誌に掲載された論文の著者で40歳未満の本学会員または学生会員から選出された。

9月8日〔水〕13時－14時20分 座長：松井茂之（統数研）

13時－13時40分：川口淳（久留米大）

「拡張二変量順位和統計量の2期2剤4群クロスオーバー試験への応用」

13時40分－14時20分：上村鋼平（医薬品医療機器総合機構）

「A Modification of the 50%-Conditional Power Approach for Increasing the Sample Size Based on an Interim Estimate of Treatment Difference」

C) 日本分類学会企画セッション

「統計的分類手法の新展開とその応用」

オーガナイザー：山口和範（立教大）

9月8日〔水〕13時－15時 座長：山口和範（立教大）

13時－13時30分：岡太彬訓（多摩大） 「クラスター分析の諸課題」

13時30分－13時55分：水田正弘（北海道大）

「分布値で与えられた類似度データの解析法」

13時55分－14時20分：栗原孝次（岡山大）、石岡文生（岡山大）

「時空間データの位相構造による分類とその応用」

14時20分－14時45分：中井美樹（立命館大）

「社会調査データのクラスター分析－ライフスタイルを中心に」

14時45分－15時：総合討論 コメンテータ：馬場康維（統数研）

D) 日本統計学会「金融の計量リスク管理」分科会企画セッション

「金融の計量リスク管理」

オーガナイザー：三浦良造（一橋大）

9月7日〔火〕15時30分－17時30分 座長：三浦良造（一橋大）

15時30分－15時35分：三浦良造（一橋大）

「日本統計学会新分科会『金融の計量リスク管理』の紹介と今回の企画」

15時35分－16時5分：池森俊文（みずほFT）

「金融機関のリスク管理－理論と実践の調和」

16時5分－16時35分：加藤宏典（統数研，GCIC）

「ヘッジファンドのVaR計測モデルの再構築」

16時35分－17時5分：塚原英敦（成城大） 「歪みリスク尺度に関する統計的話題」

17時5分－17時25分：三浦良造（一橋大）

「個別ヘッジファンドリターンデータの統計的構造」

17時25分－17時30分：総合討論

2) 統計関連学会連合，横幹連合，他学会との共催セッション

以下では，2010年度統計関連学会連合大会の特色をなす，多学会による企画，並びに，第3回横幹総合シンポジウムと同期開催したことを活かして，統計関連学会以外の学会が企画した統計に関するセッションを紹介する．横幹連合並びに横幹連合会員学会企画セッションについては，第3回横幹総合シンポジウム予稿にも概要が掲載される．

E) 「教育」に関する統計関連学会，横幹連合，他学会共催セッション

最近の統計関連学会連合大会で定着しつつある統計教育に関するセッションを今年は，9月6日〔月〕に1日視点の異なる3つの企画セッションとして同一会場に配置した．統計を

含む横断型基幹科学技術に関する専門家教育，小中高で開始された問題解決型統計教育，統計教育の質保証といった3つのセッションである．最初の2つのセッションは，第3回横幹連合総合シンポジウムとの共催セッションとなる．（E1は，横幹連合企画，E2は横幹連合会員学会である日本品質管理学会の企画・共催セッション）

E1) 横断型基幹科学技術研究団体連合・統計関連学会連合共催セッション

「横断型人材育成」

オーガナイザー：本多敏（慶應大），渡辺美智子（東洋大）

9月6日〔月〕10時－12時 座長：長田洋（東工大）

10時－10時30分：遠藤薫（学習院大） 「文理融合はなぜ必要か」

10時30分－11時：藤原靖彦（元日産自動車技術顧問），

旭岡勝義（社会インフラ研究センター），

高津春雄（横河電機），坂井佐千穂（住商情報システム）

「企業における横断型人材育成の現状と課題」

11時－11時30分：高木英明（筑波大） 「サービス・イノベーション人材育成の試み」

11時30分－12時：星千枝（教育テスト研究センター）

「21世紀の職業人に要求される新しいジェネリックスキルその育成と評価」

E2) (社) 日本品質管理学会企画共催セッション，横幹連合総合シンポジウム共催セッション

「問題解決型統計教育」

オーガナイザー：鈴木和幸（電通大），渡辺美智子（東洋大），椿広計（統数研）

9月6日〔月〕13時－15時 座長：鈴木和幸（電通大情報理工）

13時－13時25分：西村圭一（国立教育政策研） 「問題解決型統計教育の推進へ向けて」

13時25分－13時50分：三上明輝（総務省統計局）

「社会問題解決に活かす統計教材：統計局HP『なるほど統計学園』」

13時50分－14時15分：羽田源太郎（元コニカミノルタ）

「統計的問題解決を進めてきた品質管理の現場」

14時15分－14時40分：鈴木和幸（日本品質管理学会会長，電通大）

「統計的問題解決法が日本製品の品質向上に果たした役割と

統計教育への日本品質管理学会の取り組み」

14時40分－15時：指定討論 討論者：本多敏（慶應大），

星千枝（教育テスト研究センター）

E3) 統計関連学会連合統計教育推進委員会，日本統計学会統計教育委員会企画セッション

「統計教育の質保証の枠組み」

オーガナイザー：統計関連学会連合統計教育推進委員会（委員長 田栗正章），

日本統計学会統計教育委員会（委員長 渡辺美智子）

9月6日〔月〕15時30分－17時30分 座長：村上征勝（同志社大）

15時30分－15時55分：伊藤文雄（ABEST21 理事長，青山学院学事顧問）

「専門職教育質保証と教育の質の改善」

15時55分－16時20分：吉澤正（品質管理検定運営委員会委員長）

「品質管理検定の取り組み：運営と出題」

16時20分－16時45分：田栗正章（大学入試センター，中央大）

「統計教育の分野別質保証のための参照基準」

16時45分－17時10分：美添泰人（日本統計学会会長，青山学院大）

「認証試験制度と学会の役割」

17時10分－17時30分：指定討論 討論者：竹村彰通（東京大），

川崎茂（総務省統計局長）

F) (社)日本リモートセンシング学会企画セッション

「衛星リモートセンシングデータ実利用と精度」

オーガナイザー：西井龍映（九州大）

9月6日〔月〕13時－14時50分 座長：西井龍映(九州大)

13時－13時30分：稲村實（群馬大名誉教授）

「カテゴリーの分類と分解，その特徴と性能」

13時30分－14時10分：飯倉善和（弘前大）

「衛星画像処理における物理モデルと統計モデル」

14時10分－14時50分：横田達也，吉田幸生，森野勇，内野修，松永恒雄，Shamil Maksyutov，

渡辺宏（国立環境研究所地球環境研究センター）

「温室効果ガス観測技術衛星『いぶき』の観測プロダクトとその精度情報」

このセッションは第3回横幹連合総合シンポジウムとの相互乗り入れセッションとなっている。

G) 日本感性工学会企画セッション

「感性のデータ科学」

オーガナイザー：領家美奈（筑波大），小代禎彦（筑波大）

9月6日〔月〕15時30分－17時30分 座長：領家美奈（筑波大）

15時30分－16時：小島隆矢（早稲田大）

「半構造化インタビュー手法による抽出語句に関する研究

－評価グリッド法と三個組法の比較－」

16時－16時30分：小野久美子，高見真二（国土交通省国土技術政策総合研究所）

「公共的な建築空間における日常事故防止に関する研究

ー事故実態の把握と事故防止のための取り組みについてー」

16 時 30 分ー17 時：廣瀬毅士（立教大）

「ローカル文化の知覚品質ー和風嗜好の消費文化論」

17 時ー17 時 30 分：小代禎彦（筑波大）

「住宅の好みとインテリアの選択行動に関する研究」

このセッションは第 3 回横幹連合総合シンポジウムとの相互乗り入れセッションとなっている。

H) (社)日本品質管理学会企画セッション

「調査の質マネジメント」

オーガナイザー：山本渉（電気通信大）

(社)日本品質管理学会は内閣府統計委員会の依頼を受け、日本統計学会との連携を前提に、本年 7 月に「統計・データの質マネジメント」研究会を発足させた。ここでは、ISO 規格に基づく調査の質保証に対する品質マネジメントシステムの考え方と本年わが国でも立ち上がった認証システムについて紹介し、その利用可能性について議論する。本セッションは講演者の日程調整により、9 月 7 日開催になっているが、第 3 回横幹連合総合シンポジウムとの相互乗り入れセッションとなっている。

9 月 7 日 [火] 13 時ー15 時 座長：山本渉（電気通信大）

13 時ー13 時 25 分：山田秀（筑波大ビジネス科学研究科教授）

「質マネジメントの基本原則とマネジメントシステム」

13 時 25 分ー13 時 50 分：鈴木稲博（日本マーケティング・リサーチ協会 専務理事）、一ノ

瀬裕幸（日本マーケティング・リサーチ協会 ISO20252 認証協議会委員長）

「ISO20252 による市場・世論・社会調査の質マネジメント」

13 時 50 分ー14 時 15 分：田中隆（日本適合性認定協会）

「ISO 20252 マーケットリサーチサービス製品認証・認定制度」

14 時 15 分ー15 時：総合質疑と討論 司会：山本渉（電気通信大）

3) 統計関連学会会員の企画セッション

I) 環境・生態データのモデル化と解析

オーガナイザー：清水邦夫（慶應大）

環境・生態データの多様性により、研究対象とその研究者・使用する手法・解釈が多岐に渡ることは容易に想像される。しかしながら、環境・生態データのモデル化と分析という重要な課題に対する共通の認識・方法論が存在してもよいはずであり、本セッションは環境・生態・生物の研究者と統計・データサイエンスの研究者とのフォーラムの形成を意図して計画されている。互いの立場から環境・生態データに内在する問題に関してデータ

の紹介・モデルの提案・解析結果の紹介等を通して議論を深めることをねらっている。
本セッションは、9月6日と7日の2日間にわたって行われる。

セッション（1） 9月6日〔月〕10時－12時10分 座長：金藤浩司（統数研）

清水邦夫（慶應大）「セッション趣旨説明」

10時－10時20分：久保田康裕（琉球大）、松田安昌（東北大）

「外来種マングース個体群の空間動態」

10時20分－10時40分：飯島勇人（山梨県森林総合研究所）

「出猟カレンダーと状態空間モデルによる山梨県のニホンジカ個体群の動態の解析」

10時40分－11時：永野惇、井澤毅（農業生物資源研究所）

「野外環境におけるイネの遺伝子発現のモデリング」

11時－11時20分：久保拓弥（北海道大学大学院地球環境科学研究院）、重田麻衣

（北海道大学大学院環境科学院）、亀崎直樹（日本ウミガメ協議会）

「WinBUGS を使った生物集団の時系列解析：ウミガメ上陸数を例に」

11時20分－11時40分：甫喜本司（東京大）

「気象の変化が波浪に与える影響：構造変化のモデル化」

11時40分－12時：田中章司郎（島根大）、西井龍映（九州大）

「AN APPLICATION OF NOVEL ZERO-ONE INFLATED DISTRIBUTIONS
WITH SPATIAL DEPENDENCE FOR DEFORESTATION MODELING」

セッション（2） 9月7日〔火〕9時30分－11時10分 座長：中村忠（岡山理科大）

9時30分－9時50分：林岳彦（国立環境研究所）、柏木宣久（統数研）

「ベイズ統計を用いた化学物質の定量的生態リスク比較」

9時50分－10時10分：藤井孝之、影山正幸（統数研）、蒲生昌志（産業技術総合研究所）、
金藤浩司、椿広計（統数研）

「化学物質リスクトレードオフ解析における推論アルゴリズムの開発」

10時10分－10時30分：島谷健一郎（統数研） 「森林群集と点過程モデル」

10時30分－10時50分：小田牧子（岡山大）、正木隆（森林総合研究所）、

栗原考次（岡山大） 「樹木の空間構造分析」

10時50分－11時10分：阿部俊弘（統数研）、久保田康裕（琉球大）、島谷健一郎（統数研）、
清水邦夫（慶應大）

「倒木の倒壊方位データのモデル化と解析」

J) 海洋生態・水産資源データの解析と統計的モデリング

オーガナイザー：南美穂子（慶応大）

2010 年は国連の定めた「生物多様性年」にあたり、生物多様性条約の目標年という節目

でもある。生物多様性条約は持続可能な陸海空を含めた生態系の保全と活用を目指すものだが、そのためには、どこにどのような種がいるのかを把握する必要がある、その基礎となるのが調査にもとづくデータとその統計的推測と考えられる。ことに海洋生態においてはその面積が広いということだけでなく、何がいるのかを具体的に「見る」ことが陸地よりも難しく、調査へ出てサンプルを採り、はじめて存在が分かる、あるいは、「見る」ための方法とその評価に特別な工夫が必要である、という困難が伴う。また、水産資源の需要が世界的に高まる中、その状態を可能な限り正確に把握し、漁業や環境変動などが資源に与える影響を理解することは、水産資源を枯渇させず持続的な利用を図る上で、また、生態系の保全という意味においても重要なことである。

本セッションは、海洋生態学、水産資源評価の分野で世界を舞台に活躍されている 2 人の若手日本人研究者と、この 2 人とも共同研究をし、また、多くの興味深いプロジェクトにも参加されているオーストラリアとノルウェーの研究者の 4 人の講演で構成される。

海洋生態・水産資源評価における様々な困難や問題点、それを克服するための統計科学的なアイデアや工夫、空間的特性や環境要因の影響を取り入れるための統計モデルとソフトウェアの紹介、水産資源の遺伝的集団特性の解析などの興味深い研究を紹介することによって、より多くの方に、重要度の割に日本人研究者の少ないこの分野に興味を持っていただけるようになればと願っている。

9 月 7 日 [火] 13 時－15 時 座長：南美穂子（慶應大）

13 時－13 時 30 分：Hans J. Skaug (University of Bergen, Norway)

「Nonlinear mixed models in AD Model Builder with application to marine ecology」

13 時 30 分－14 時：北門利英（東京海洋大）

「水産資源の遺伝的集団構造に対する統計的推測」

14 時－14 時 30 分：Scott Foster, Mark V. Bravington (CSIRO)

「Fisheries Catch and Effort Analyses: Dealing with exact zeros
through extensions of Tweedie models.」

14 時 30 分－15 時：島津秀康 (Geoscience Australia) , Scott D. Foster (CSIRO),

Darnell Ross (CSIRO)

「The data-reality gap: an attempt to understand marine biodiversity
through survey data」

K) 世論調査の技術革新: コンピュータを用いた調査とその展望

オーガナイザー：田中愛治(早稲田大)、日野愛郎(早稲田大)、西郷浩(早稲田大)

本セッションの目的は、近年盛んになりつつあるコンピュータを用いた世論調査を広く紹介し、その学術的意義について多角的に検討することにある。これまで、コンピュータを用いた世論調査は、電話調査による無作為番号抽出 (RDD) などの用途に限定されていた。

しかし、近年はサイバーパネルを利用したインターネット上の Web 調査や従来の訪問面接調査においてコンピュータ画面上で回答者に答えてもらう CASI (Computer Assisted Self-administered Interview) 調査等が実施されるようになり、質問順序・選択肢順序の無作為化や回答時間の分析が可能となった。また、画像データを調査に織り込むことも可能となり、実験コンポーネントと世論調査の融合が進みつつある。本セッションでは、これらの新たな分析の地平を切り拓く世論調査の技術革新を概観し、討論者やフロアを交えて、その学術的意義と今後の課題について考察する。

9月7日 [火] 9時30分–11時30分 座長：西郷浩（早稲田大）

9時30分–9時50分：田中愛治（早稲田大）、日野愛郎（早稲田大）

「コンピュータを用いた世論調査について」

9時50分–10時10分：栗山浩一（京都大） 「CASI 調査のプログラミングについて」

10時10分–10時30分：今井亮佑（首都大学東京）

「選択肢順序の無作為化の効果について」

10時30分–11時：指定討論 討論者：前田幸男（東京大）、星野崇宏（名古屋大）

11時–11時30分：フロアとの意見交換・総合討論

L) システム生物学に基づくトランスレーショナルメディシンにおける統計学的諸問題

オーガナイザー：井元清哉（東大医科研）、山口類（東大医科研）、樋口知之（統数研）

統計関連学会連合大会がスタートした 2003 年度より 7 年間に渡り、ゲノム科学におけるデータ解析をマイクロアレイデータを中心としてその統計学的問題を議論し、より根幹となる情報を抽出するための新たな方法論開発を目指して企画セッションを設けてきた。一連の企画セッションにおいて議論され磨かれた方法論の多くは世に出て、大学や研究所の研究室において利用され、様々な生物学的発見に貢献しこれまでの企画セッションが目指した一つのゴールは達成されつつあると感じている。

近年、研究室において得られた結果を医療へと繋げるトランスレーショナルメディシンが米国を中心として集中的に議論され、先端的研究室、製薬会社、ベンチャー企業などがこぞって新たなデータを産出している。特に、次世代シーケンサーと呼ばれる高速シーケンサーの登場は、研究室のデータを個別化医療へと繋げるための研究を推進する強力なエンジンとなっていると思われる。しかしながら、日本においてはそのような研究はまだ芽吹いたばかりである。

本企画セッションでは、システム生物学において、将来の医療応用を目指した統計科学的データ解析、およびそのための方法論を講演いただく。特に、データと疾患との関連、疾患のゲノムレベルの理解を目指したデータ解析、疾患の有無を予測するバイオマーカー探索、予後や疾患の再発予測、新たな治療への可能性を示唆するデータ解析などについて、マイクロアレイデータ、プロテオームデータ、DNA シーケンスデータなど様々なデータを

統合的に利用した統計学的手法の理論，方法論，実際の解析についての講演を企画した。

9月7日〔火〕9時30分－11時30分

座長：井元清哉（東大医科研），山口類（東大医科研），樋口知之（統数研）

9時30分－10時10分：宮野悟（東大医科研）

「特別講演：がんをシステムとして読み解くために」

10時10分－10時30分：島村徹平，井元清哉，山口類，宮野悟（東大医科研）

「係数変動構造方程式モデルに基づくネットワークプロファイリングによる
がんシステムの多様性解析」

10時30分－10時50分：吉田亮，長尾大道，斎藤正也（統数研）長崎正朗，井元清哉，
山口類，山内麻衣，後藤典子，宮野悟（東大医科），樋口知之
（統数研）

「癌細胞シミュレーションと生化学反応系の統計モデリング」

10時50分－11時30分：松井茂之（統数研）

「特別講演：がんの分子診断マーカーの臨床開発：現状と課題」

M) 抗がん剤第Ⅰ相試験における統計の役割

オーガナイザー：石塚直樹（国立国際医療研究センター）

一般薬の第Ⅰ相試験が健常男子を被験者とした臨床薬理試験であるのに対して，抗がん剤の第Ⅰ相試験はがん患者を被験者として毒性を基に用量を選択する試験である．今年に1990年にベイズ流のデザインとして Continual Reassessment Method（CRM）が Biometrics に登場し20年になる．それでも，統計的な意味をほとんど持たない3例ごとに増量を判断する従来のデザインが半世紀以上も使われ続けていることも事実である．2つのデザインにおける統計家の関与は歴然としている．そこで，元 FDA 審査官で現在は製薬企業の開発の立場から，抗がん剤第Ⅰ相試験の目的，実施体制，結果の報告がどのようにされているかを紹介し，統計家が何を突きつけられているのか提示する．次いで CRM の原理とその変法を従来からのデザインと対比させながら紹介し，事前情報の取扱いやそのパラメータを含む用量反応モデルについて事例を複数紹介する．それらを通じて CRM の20年を振り返るとともに今後を展望したい．

9月7日〔火〕13時－15時 座長：石塚直樹（国立国際医療研究センター）

森田智視（横浜市大）

13時－13時20分：鈴木理之，小林健（ノバルティス・ファーマ）

「臨床的視点からのベイズ法」

13時20分－13時40分：石塚直樹（国立国際医療研究センター）

「Continual Reassessment Method の紹介：従来法と比較して」

13 時 40 分－14 時：森明日香（ノバルティス・ファーマ）

「過量投与制御を伴う用量漸増原則(EWOC)に基づいた
ベイズ流ロジスティック回帰モデルを用いた MTD の探索」

14 時－14 時 20 分：森田智視（横浜市大）

「Continual reassessment method の研究者主導型がん第 I 相試験への適用」

14 時 20 分－14 時 40 分：谷口隆司（ヤクルト） 「遺伝子多型を考慮した第 I 相試験」

14 時 40 分－15 時：Stuart Bailey and Simon Wandel (Novartis Pharma AG)

「Modeling dependence of safety and efficacy in phase
I oncology studies using copulas」

N) 臨床試験におけるデータ・モニタリング委員会と統計家の役割

オーガナイザー:越水孝（ヤンセンファーマ）

近年、医薬品開発の効率化のための 1 つのオプションとして、アダプティブ・デザインを用いた臨床試験が注目されている。このような試験では中間解析を伴い、情報の機密性保持のためにデータ・モニタリング委員会（DMC）が組織される。中間解析の実施と DMC の組織化は、本邦において一部の疾患領域では経験が積まれているものの、必ずしも全ての疾患領域で認知されているわけではない。また、DMC においては統計家が中心的な役割を果たすことになるにも拘らず、DMC に必要な知識や経験を有している専門家が限られていることも課題である。本邦において中間解析や DMC の経験が増えることが新たな臨床試験方法論の発展につながり、そのことが統計学的方法論のさらなる発展にもつながるものと考えられる。そこで、本企画セッションでは、まず DMC の必要性およびそれに関わる生物統計家の役割について知っていただくことを目的とし、議論の場を設けたいと考えている。

9 月 7 日 [火] 15 時 30 分－17 時 30 分 座長：菅波秀規（興和）

15 時 30 分－15 時 45 分：越水孝（ヤンセンファーマ）

「医薬品開発におけるデータ・モニタリング委員会の現状と必要性」

15 時 45 分－16 時 05 分：土岐恵美（万有製薬）、矢島 勉（ヤンセンファーマ）、

萩野 篤司（持田製薬）、栗林 和彦（ファイザー）、加藤 政春
（バイエル薬品）、工藤 健太郎（武田薬品工業）、越水 孝
（ヤンセンファーマ）

「データ・モニタリング委員会の組織構築と留意点」

16 時 05 分－16 時 30 分：森田智視（横浜市大） 「DMC 統計家の立場から」

16 時 30 分－16 時 50 分：堺伸也（イーピーエス） 「DMC 運営の立場から」

16 時 50 分－17 時 30 分：総合討論 指定討論者：石塚直樹（国立国際医療センター研）、
山口拓洋（東北大）、伊藤陽一（北海道大）

0) 食品安全性と統計科学との接点

オーガナイザー：大西俊郎（九州大）

食品安全分野で統計科学に期待を寄せる専門家の問題意識と当該分野に関連するあるいはその可能性のある統計側の問題意識とを改めて確認したい。

9月7日〔火〕15時30分－17時30分 座長 大西俊郎（九州大）

15時30分－16時：荒木恵美子（東海大） 「HACCP システムの悩み：妥当性確認と検証」

16時－16時30分：春日文子（国立医薬品食品衛生研究所）

「食品の微生物学的リスク管理とリスク評価のためのデータに関する定量的考察」

16時30分－17時：鈴木知道（東京理科大） 「質的データの測定精度の評価」

17時－17時30分：柳本武美（中央大）、柳本正勝（食品総合研究所）

「計量と実証の視点から見た食品の安全性評価」

P) スポーツ統計科学の新たな挑戦

オーガナイザー：酒折文武（中央大）、田村義保（統数研）

2010年2月11日の日経新聞にスポーツ統計学の日本の中心的研究者の一人である鳥越規央氏（東海大）がとりあげられているように、日本においても、先進国であるアメリカに50年以上は遅れているが、この分野が注目を集めるようになっていく。スポーツの戦術等を統計科学で分析することは、勝利するため、良い成績を残すためには必須のものとなってきている。しかしながら、わが国においては統計科学の研究者からの関与が十分とはいえない。昨年に引き続きスポーツの現場における統計分析活用の現状や国内外の最先端の研究動向を知り、スポーツにおける統計科学の重要性を実務家と統計学者の双方において共有し、スポーツ科学ならびに統計科学の更なる発展に資することを目的として、本セッションを提案した。本年は韓国統計学会のスポーツ統計セッションの会長による基調講演、実務家や研究者による研究報告を行う他、日本におけるスポーツ統計科学の課題と統計家の果たすべき役割についてフロアを交えて討論する。

9月8日〔水〕10時－12時 座長：酒折文武（中央大）

10時－10時30分：Chong Sun Hong (Sungkyunkwan University)

「Prediction Model of 2010 South African World Cup」

10時30分－11時：山口和範（立教大）

「スポーツ競技における統計活用への課題 ―現場での視点から―」

11時－11時30分：鳥越規央（東海大）、岡田友輔（データスタジアム）

「Win Probability Added per Pitch」

11時30分－12時：鎌倉稔成、小椋透、大草孝介（中央大） 「スポーツ解析と統計教育」